

# ちよつとちがうぜ 中国で農業

土下信人 (つちした・のぶひと)

1949年愛知県生まれ。95年、沖縄で(有)土下を設立。組織培養技術を活用した苗生産・販売を中心とした農業のコンサルタント業務を開始。上海で組織培養施設への指導を行ない、2003年同地で組織培養会社、上海百奥微繁植物有限公司を設立。HP「大きな国で」を開設。

<http://blog.livedoor.jp/touxia/>

## すべては儲けるために

中国に来た当初は、日本との違いを捜しては、「中国人はなんて自分勝手なんだ」「金儲けのことしか頭にない汚い奴らだ」などと、いちゃいちゃ憤っていたものだ。だが、中国の環境に慣れてくると、逆に日本のおかしさの方が目に付きだした。

日本の農産物市場は、品質重視と言えば聞こえはいいが、結果的には余分や無駄を追求するに等しい行為をしているように見える。日本で語られている『自給率論』も、何のため、誰のために言われていることなのかと考えてみると、まるで茶番だ。中国人のデモに騒ぐ日本のマスコミにも辟易する。上海生まれの若手作家である韓寒は、自分たちの国民性を「内政問題でデモもできない民族が日本に抗議をしたって意味がない」と言っている。それは反日デモが官製デモだからだ。にもかかわらず、毎度騒ぎ立てる日本のマスコミにはあきれってしまう。

結局、日本という国や農業がガラパゴス化しているということに、中国に来て初めて気がついたわけだ。井の中の蛙は自分であった。

そんな風に思うようになったのは、やはり中国人の価値観が日本人とは全く違うからだろう。

例えば、「空気を読む」「言わぬが花」「沈黙は金」「以心伝心」に代表される日本人気質は、中国人にはまったく通用しない。ましてや「一宿一飯の恩義」「同じ釜の飯を食べた」などという浪花節とは縁もゆかりもなく、どれだけ儲けさせてくれるかわからない民族である。そのことを理解できて初めて中国で通用する人間になれるのだ。

## 竜頭企業による価格操作

そうした中国の背景を知る自分としては、TPPのことを考えると空恐ろしいものを感じる。

というのも、中国では昨年からはニンニクが高騰しており、年末にはハクサイとダイコンも高騰した。これは野菜の価格が抑えられている中国では、おかしなことなのだ。

価格が抑えられているのは、中国が農村と都市の2重構造から成り立っている、農民の社会的地位が下層階級に位置付けられているからだ。農民は土地も持たず補償もなく、病気にかければ医者にも行けない。公共工事に動員されることもある。加えて、中国の農産物はオークションによる市場が形成されておらず、仲卸も正常に機能していないという状況もある。

ではなぜ、そんな中国で野菜が急

に値上がりしたのか。それは竜頭企業なるものがさばっているからである。こうした企業が不動産に手を出して儲けることを政府が抑制し始めたことで、竜頭企業は農産物を投機の対象として買い占め、値段を釣り上げるようになった。

先のハクサイとダイコンの高騰には、韓国の天候不順によって「キムチ危機」が起こったという事情も絡んでいるものの、竜頭企業が中国のハクサイとダイコンを買い占めて価格操作に入ったという背景もある。零細な農家は少しでも高く売れるところに販売しようとするため、投機がうまくかみ合うのだ。

竜頭企業は強力な市場原理を働かせることで、機に乗じて金を儲けられる仕組みをつくり出している。それを後押ししているのは中国政府だ。金儲けに手段を選ばない彼らに平等な農産物貿易を許してよいのだろうか。異常気象という天候不順に左右される日本や韓国が、中国という広い国土で買い漁る竜頭企業の餌食になり続けることになりはしないだろうか。日本の農業の正常な発展にTPPは重要だが、竜頭企業がつくる悪質な金儲けのシステムには何かしらの対策を講じる必要があるだろう。中国は、以前にも増して厄介な国に変化しつつある。